

「【皮下注】ペルツズマブ+トラスツズマブ+ERI」について

この治療法は、HER2 タンパクが過剰発現している転移・再発の乳癌に対して行われる治療法です。「ERI」とはエリブリンの略称です。

1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
ペルツズマブ+トラスツズマブ ※1	抗がん剤	皮下注射
生理食塩液	経過観察	30分※2
デキサメタゾン	吐き気止め	10分
エリブリン	抗がん剤	5分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	約5分

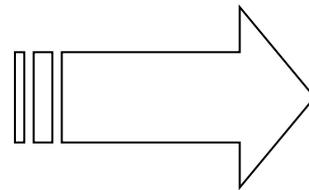
※1 ペルツズマブとトラスツズマブを配合した薬剤です。

※2 観察時間はインフュージョン・リアクションの出現の有無を観察する時間で、15分まで短くなる場合があります。

2. スケジュール

ペルツズマブ+トラスツズマブ+ERI は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日と8日目に抗がん剤を投与し、その後の13日間(21日目まで)は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目		
	1日目	8日目	9日目～21日目
投与日	○	○(エリブリン)	
休薬日			○



3. 特徴

●ペルツズマブ

作用: がん細胞の表面にある HER2(ハーサー) 受容体においてその働きを抑制し、がん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●トラスツズマブ

作用: がん細胞の表面にある HER2(ハーサー) 受容体への刺激をブロックしてがん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

●エリブリン

作用: がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後7～10日目くらいに減少のピークを迎え、21日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。手洗い、うがいを心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合は速やかに抗生剤の内服を開始し、3日間飲みきるようにしてください(途中で解熱しても服用を中止せず飲みきってください)。それでも解熱しない場合はご連絡ください。

※ただし、抗生剤によるアレルギーと思われる症状(発疹、かゆみ、動悸、発汗、息苦しさなど)が現れた場合は服用を中止しご連絡ください。



脱毛

好発時期: 2～3週間過ぎた頃から起こりやすくなります。

ただし、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

対策: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただけるとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



注射時反応 (Infusion reaction)

好発時期: ペルツズマブやトラスツズマブの注射が開始になってから24時間以内に現れやすい症状です。

主な症状は発熱、悪寒(さむけ)などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

対策: 解熱剤が処方になっている場合は、症状に合わせて服用してください。

疲労感

好発時期:注射後に体の疲れやだるさを感じることがありますが、多くの場合、次の治療までに回復してきます。

対策:こまめに休息を取り、睡眠時間を確保して、身体を休ませましょう。

症状が長引くときにはご相談ください。



吐き気・嘔吐

好発時期:治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、
症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。



対策:抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。
考えすぎるとそれだけで症状が出てくる場合があります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

食欲不振

好発時期:治療開始から数日～1週間程度で一時的に低下してくることがあります。

対策:食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

症状が長引くときはご相談ください。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接傷害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によって起こる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触るとザラザラするなど)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹などです。**できやすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期:抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策:次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療など

3. 栄養状態の不良
4. 口腔付近の放射線治療
5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外でも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭など)はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩:4.5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2~3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎ができてしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎ができてしまったらご相談ください。

水疱や白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

しびれ（末梢神経障害）

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を傷害することで発症します。症状は手、足先から出てくることが多く、しびれ、感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、つまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる(数ヶ月~1年)場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

好発時期:抗がん剤点滴終了後数日でも出ることもありますが、多くは数週間~数ヶ月の間に起こりやすくなります。

自覚症状としてはボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまずきやすいなどです。

対策:早い時期に発見した方が回復も早いため、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用するなど。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ、息苦しさ(座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など)、手足のむくみなどの症状が出てきます。

重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。



好発時期: 治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

対策: 定期的に心臓の機能検査を行い評価します。

状態によっては休薬して回復を待ったり、場合によっては投与中止となることもあります。

もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。

上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: **初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。**



アレルギー

好発時期: 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでるなどです。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることがあります。

好発時期: 点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表: TEL 028-626-5500